

～『内科的歯科医院』を選ぶ際の6つのポイント～

- 1 初診時には患者のデータを把握するためにレントゲン撮影と口腔内写真・唾液検査などを行なってくれること(事前に電話で問い合わせたり、インターネットで調べてみたりするのもひとつの手段)
- 2 患者のデータを積極的に開示し、きちんとした説明を行ってくれること
- 3 歯科衛生士が常駐していること(医療職務をネームプレートや院内表示で明示)
- 4 診察室が個室、または少なくとも隣の患者との仕切りが設けられていること(その医院の衛生管理の質が問われる。診察台が並んでいるような医院はNG)
- 5 衛生士などのスタッフユニホームがパンツスタイルであること(歯科衛生士は器具を足で操作したり、足を広げるような動きが多い職種。機能重視でユニホームを選ぶ医院経営の姿勢が大切)
- 6 たった1本の歯の価値に重きをおいた治療方針であること(むし歯や歯周病に歯を抜いたり削ったりする医院はNG。「むし歯センサー」のような客観的診断ができる機材の導入も重要)

# 11月8日はいい歯の日

むし歯や歯周病になる前に……  
口内の定期的メンテナンスを  
行いましょう!

のすすめ



歯科衛生士がデジタルカメラで口の中を隅々まで撮影を行う

の状況を認識してもらうことから始まり、患者さんの生活習慣や食生活までアドバイスなどをさせていただくこともあります(奥富院長)

そのほかにも、服用している薬が口の中に及ぼす影響や、乳幼児を持つ母親へのアドバイスなども行っているのだそう。時には、口の中を診ることでほかの病気の発見につながる場合もある。

「内科的歯科医院」は、お口の中の治療だけでなく、体のメンテナンス全般に関するアドバイサーの役割を果たすとも言えるんです。そのためにも、患者さんには定期的な歯科に通ってもらう必要がある。そのための信頼関係を

築くためにも、一人ひとりのコミュニケーションを大切にしています。また、当院では、唾液検査も積極的にを行っています(奥富院長)

唾液検査とは、唾液の量や性質、口の中の細菌状況を調べる検査のこと。人によって大きな差がある状況を明確にし、むし歯やそのほかの病気へのリスクを調べるという。「まったく同じ症状の患者さんだとしても、その人の口の中の環境によって処置方法や治療後のメンテナンスは違ってきます。たとえば、同じようにハミガキを行っていても、その人の唾液の中の菌の数や種類によってむし歯になる可能性に差があることを知

っていますか? 治療前には、各個人のデータを取ることで適切な治療を行ううえで必要不可欠なことなのです(奥富院長)

たとえば初めむし歯が発見された際、その人がむし歯になりにくい体質だとわかっていれば、すぐに削ったり詰めたりする必要はなく、経過観察という選択肢もあるのだ。私たちが実際に「内科的歯科医院」を選ぶ際には、どういった基準で選ぶとよいのだろうか? 今まで数多くの歯科医院の内情を見てきた前出・伊藤氏に伺った。

「初診時にレントゲン撮影と口の中の写真撮影や唾液検査などを行い、患者さんのデータをきちんと把握しようとする歯科医院であるかどうかをチェックしましょう。そういった検査を行ってくれるかどうか、電話で事前に問い合わせたりインターネットで調べてみたりするのもひとつの手です。また、患者のデータを積極的に開示しようとする姿勢も大切。写真やレントゲンを患者自身と共有し、明確な説明を行ってくれる医院かどうかを見極める目が大切です(伊藤氏)

医者まかせの治療に頼るのではなく、良質な治療と健全な歯科医院を見極める目を持つことで、いつまでも「いい歯」を維持しましょう!

# 内科的 歯科医院

「内科的歯科医院」という言葉を聞いたことがあるだろうか? 今、ひそかに注目を集めている歯科のこのような取り組みについて著者「医者が秘密にしておきたい病気の相場」(青春出版社刊・共著 富家孝)の中でも紹介している、歯科医療コンサルタントの伊藤日出男氏はこう語る。

「これまでの歯科医院は、むし歯の痛みの除去やそれに関連した詰め物・被せ物などを施すことが主な治療でした。つまり、すでに病気になる前に、そういった医療行為は、果たして本当に患者さんの健

康維持に役立っているのだろうかという疑問から生じた医院が「内科的歯科医院」なのです(伊藤氏)

百聞は一見にしかず! ということで今回、むし歯知らずの幸せな人生ゆえに、歯科医院に関しては超初心者の本誌記者が、体験取材を敢行! 埼玉県朝霞市にある「中央歯科クリニック」にお邪魔して、院長の奥富史郎氏にお話を伺った。

「私も以前は大学の口腔外科に勤務し、手術も行っていました。痛んでしまった歯を修復する治療は大切な医療行為ですが、ではそもそもなぜむし歯や歯周病になってしまう

のか? そうなる前に歯科医師としてすべきことがあるのではないかと疑問に思ったことが、口腔外科医でありながら内科医的な臨床に取り組んできたきっかけです。日本の歯科の現場では、歯が痛んでどうしようもなくなってきたら病院に駆け込む患者さんが大半を占めています。ですが、その前に医師と患者さんが向き合う機会を作りたいかったです(奥富院長)

たしかに、誰も一度は、激痛のあまり深夜に駆け回った揚げ句、あわてて翌朝に歯科に駆け込むといった苦い経験があるのではないだろうか? 痛みの原因となっていた歯をスポッと抜かれ、一件落着とばかりに帰宅する患者が多い。「進行具合にもよりますが、いとも簡単に歯を抜いたり削ったりしてしまう行為をまったく不思議に思わない患者さん自身の意識にも、私は問題を感じています。たとえば、同じような治療を外科で行ったとしたら、どうでしょう? 健康な指の骨を必要以上に削ったとしたら、誰だっかって不信に思いますよね。しかし、

「むし歯センサー」は音と数値で歯の状態を知らせる

「治療前には患者さんのお口の中を、歯科衛生士がデジタルカメラで撮影します。1人あたり13枚の口の中の写真を撮り、問診の際には患者さん自身にもモニターで確認いただきます。というのも、特別な治療を施さなくとも、ご自身の自覚と努力で改善される症状も多くあるのです。現在

## 口内を診ることで ほかの病気の発見も

では、具体的にはどのような治療が行われているのだろうか?

「治療前には患者さんのお口の中を、歯科衛生士がデジタルカメラで撮影します。1人あたり13枚の口の中の写真を撮り、問診の際には患者さん自身にもモニターで確認いただきます。というのも、特別な治療を施さなくとも、ご自身の自覚と努力で改善される症状も多くあるのです。現在



唾液検査をする奥富史郎院長(左)と、伊藤日出男(右)は「一本の歯の価値を、もっと大切に思う人が増えてほしい」と口を揃える



それが歯一本のことになると、大したことではないように思われがち。でも実際には、歯の状況が少し変わるだけで、体全体のバランスが変わってきてしまいます。だから、当院では、できる限り抜かない治療、現状を維持する治療を大切にしています。そのためにも、定期的な管理やメンテナンスが非常に大切になってくるのです(奥富院長)

つまり「内科的歯科医院」とは、実際に病気になる前に、事前に食い止めるための予防医療を行っている医院のこと。また、病気の進行を最小限の治療で抑えることに積極的に取り組んでいる歯科を指している。このようなクリニックでは、健康な歯をできる限り残す治療方針をとっている場合が多い。